

校長室通信 6/16 25号

校長講話 命の大切さ

教育週間

本校では、6月15日(日)～6月21日(土)の1週間を教育週間として設定しました。学校、家庭、地域住民が連携して、子供たちが「いのちを輝かせて生きようとする心情」を育むとともに、「GIGA ワークブックながさき」を活用し、情報モラルについて理解を深めることを重点目標として取り組みます。

本日の校長講話では、「かわれるものなら」というタイトルで、命の大切さについて次のような話をしました。

幸せな家族に双子の子供が生まれ、大切に育てられます。そんな家族を、1995年1月17日、午前5時46分、阪神淡路大震災が襲います。大切に育てられてきた翔君を失った悲しみ。

お母さんは次のような手紙を書きます。



しょうくん、すごくあいたい…。今、どうしていますか？ しあわせですか？お友達は、たくさんできましたか？ママは、一番に将君にあやまらなくてはなりません。将君をおじいちゃんのおうちへ連れて行ってしまったこと。将君が、天国へ旅立つそのときに、そばにいなながらも、抱いてあげることも、手をにぎってあげることもなく、苦しい思いをさせているのにひとりぼっちで、天国に行かせてしまったこと。そして、なによりも、将君の、生きるはずだった人生をいきさせてあげられなかったこと。こんなに申し訳なく思っているのに、今もこうやっていきていることを…。ごめんなさい……。いまでも、天国に行くのが、将君ではなくて、「ママだったらよかったのになって」思っています。かわれるものなら、かわってあげたい。そばにいてあげられなくて本当にごめんなさい。

将君のお母さんは、特別に子ども思いなのではないでしょうか？

みんなのお母さんやお父さん、おうちの人と違うのでしょうか？

最後に「あなたの命は、あなただけのものではない。あなたの命を大切に思う人を、寂しくしたり、悲しくしたりしてはいけません。あなたが、おうちの人を大切に思うならば、自分の命を大切にしよう。そして、隣や周りの友達にも大切に思う家族がいるのだから、いじめやからかいは、絶対にいけないこと。いじめやからかいをなくし、命を大切にす小榊小学校。

【みんなが 今日楽しかった、明日も楽しみ】と思える小榊小学校を創っていきましょう。」と話しました。

